

「源平古戦場絵葉書 二葉」(諸家文書ほか)

【資料名】

(右) 絵葉書

古戦場屋島檀の浦源平総門

(左) 絵葉書 義経の弓流し

【年代】 昭和初期頃

【解説】

右は高松市牟礼町にある総門。源平屋島の戦いに際し、まず平氏が、次いで源氏が総門を置いたところという。高松松平家初代の松平頼重が整備し、今に伝わっている。右の石碑、中央の句碑は現在と同様であるが、周辺は家屋が立ち並んだ現在とは異なる風景が見て取れる。

左は相引川に架かる橋、牟礼と屋島をつなぐ現在の高橋の付近と思われる。川に馬で乗り入れた義経は、落とした弓を自身の名誉のために命がけで拾い上げたと言い、弓流しと呼ばれる。

絵葉書が作成された当時、橋の両岸には塩田が広がっており、岸辺に見える建物や煙突はその関連施設であろうか。はるかに五剣山を望み、かかる橋、浮かぶ船、など見るほどに興味は尽きない。

